

## 銅鏡 秋草双雀文様 一面

【所在地】 始良市蒲生町上久徳 蒲生八幡神社

【種別】 国指定有形文化財（工芸品）

【指定年月日】 大正7年4月8日



この鏡は蒲生八幡神社に保存されている。蒲生八幡は保安4（1123）年に蒲生院の総領職であった蒲生上総介舜清が豊前（大分）の宇佐八幡の分身を移して建立したといわれている。

鎌倉時代につくられたこの銅鏡は直径 20.15cm で裏面に秋草と雀が刻明にきざまれ、当時の工芸技術が相当すすんでいたことを物語っている。内区と外区の界線にかまわず、外区から内区へ秋草を配し、2羽の雀が鈕の片側に飛びあがって鏡面の秋草を生かした文様は、まったく日本的な味を横溢させており、いわゆる、藤原鏡の特色をよくあらわしているといえよう。